

主體カ判示ノ如キ社會革命思想ナル點ノ認定ニ付提示シタル前記各證據

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第二ノ事實ハ

(一) 被告人八木あきニ對スル豫審第三、四回訊問調書ヲ讀シ判示第二(一)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(二) 被告人望月治郎ニ對スル豫審第一、四回訊問調書ヲ讀シ判示第二(二)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(三) 被告人田代綾三郎ニ對スル豫審第三、四、五回訊問調書ヲ讀シ判示第二(三)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

裁判官

長

官

所

(四) 被告人和佐田芳雄ニ對スル豫審第三、四、五回訊問調書ヲ讀シ判示第二(四)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(五) 判示第一ノ事實認定ニ付提示シタル前記各證據

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第三ノ事實中

(一)ノ事實ハ

(一) 被告人鈴木晴之ノ當公廷ニ於ケル判示第三(一)冒頭記載ノ事實、(3)(8)(11)(12)ノ各事實ト同趣旨ノ供述

(二) 被告人宮崎是ニ對スル豫審第五回及第七回訊問調書ヲ讀シ判示第三(一)冒頭記載ノ事實及(2)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(三) 被告人星野準二ニ對スル豫審第五、六回訊問調書ヲ讀シ判

示第三(一)(2)(5)(10)ノ各事實ト同趣旨ノ供述記載

(四) 被告人八木あきニ對スル豫審第四回訊問調書中判示第三(一)

ノ(1)(7)(9)ノ各事實ト同趣旨ノ供述記載

(五) 被告人望月治郎ニ對スル豫審第四回及第六回訊問調書ヲ讀

判示第三(一)(4)(6)ノ各事實ト同趣旨ノ供述記載

(六) 被告人田代優三郎ニ對スル豫審第三回訊問調書中私ハ昭和

六年二月下旬頃宮崎昇及星野準二兩名下阪ノ際同人等ヨリ

豊青社成立ノ事情等ヲ告ケラレ、之カ協力ヲ求メラレ、豊

青社ノ主義ニ共鳴シ、同社ニ加入シタル旨ノ供述記載

裁判所

(七) 伊澤八十吉ニ對スル治安維持法違反被告事件ノ記録中伊澤

八十吉ノ豫審第三回訊問調書中昭和六年三月二十日頃宮崎

昇及星野準二ノ兩名ヨリ豊青社ノ成立事情等ヲ説述セラレ

之カ運動ニ協力ヲ求メラレ同社ニ加入シタル旨並判示第三

(一)(7)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(八) 松原健三郎ニ對スル治安維持法違反被告事件ノ記録中松原

健三郎ノ豫審第二回訊問調書中私ハ山田彰、島津健三郎及

増田貞治郎ト共ニ昭和六年三月二十一日頃宮崎昇及星野準

二ヨリ豊青社ノ成立事情等ヲ説述セラレ之カ運動ニ協力ヲ

求メラレ同社ニ加入シタル旨並判示第三(一)(10)ノ事實ト同趣

旨ノ供述記載

ヲ綜合シテ之ヲ記ス

(二)(1)ノ事實ハ

(一) 被告人鈴木靖之ノ當公廷ニ於ケル判示第三(二)(1)(イ)ノ事實ト

同趣旨ノ供述

(二) 被告人鈴木靖之ニ對スル豫審第五回及第七、八回訊問調書

ヲ讀シ豊村青年第一號ノ品數ノ點ヲ除キ判示第三(二)(1)(イ)ノ

事實ト同趣旨ノ供述記載

(三) 被告人宮崎昇ニ對スル豫審第九回訊問調書中判示第三(二)(1)

(イ)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

裁判所

(四) 被告人星野準二ニ對スル豫審第九回訊問調書末尾ニ添付ノ

被告人星野準二作成ニ係ル豊村青年社出版物調書中判示豊

村青年第一號發行年月日、部數、發行趣旨カ判示ノ如クナル旨

ノ記載ノ存在

(五) 被告人八木あきニ對スル豫審第四乃至第七回訊問調書ヲ讀シ判

示第三(二)(1)(ロ)ノ事實中被告人八木あきニ關スル部分ニ付同

趣旨ノ供述記載

(六) 被告人望月治郎、同田代優三郎及同和佐田芳雄ノ當公廷ニ

於ケル判示第三(二)(1)(ロ)ノ事實中右被告人等ノ關係部分ニ付

夫々同趣旨ノ供述

(七) 押収ニ係ル昭和十一年證第三六號ノ八「農村青年」第一號乃至第四號及昭和十一年證第三七號ノ四、五「農村青年」第五號第六號ノ各存在

ニ依リ之ヲ認メ

(二)ノ(2)及(3)ノ事實ハ

(一) 被告人鈴木靖之ニ對スル豫審第五回及第八回訊問調書ヲ領シ被告人八木あきニ關係スル部分ヲ除ク判示第三(一)(2)ノ事實並(3)(イ)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

實並(3)(イ)ノ事實ト同趣旨ノ供述記載

(二) 被告人宮崎晃ニ對スル豫審第九回訊問調書中被告人八木あきニ關係スル部分ヲ除ク判示第三(二)(2)ノ事實並(3)(イ)(ロ)ノ事實

裁判所

裁判所

ト同趣旨ノ供述記載

(三) 被告人星野準二ニ對スル豫審第五回訊問調書中前記被告人宮崎ト同趣旨ノ供述記載

(四) 被告人星月治郎ニ對スル豫審第四回訊問調書中判示第三(二)(3)ノ(ハ)ノ事實中同被告人ニ關スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述記載

述記載

(五) 被告人八木あきニ對スル豫審第四、五回訊問調書ヲ領シ判示第三(二)(2)及(3)ノ(ハ)ノ事實中同被告人ニ關スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述記載

示同趣旨ノ供述記載

(六) 被告人田代儀三郎ノ當公廷ニ於ケル判示第三(二)(3)(ハ)ノ事實

中同被告人ニ關スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述

(七) 押収ニ係ル昭和十一年證第三六號ノ十一「如何に爲すへきか」及昭和十一年證第四六號ノ四、五、六「農民の友第一

二號」「黑色農民新聞」ノ各存在

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

(二)(4)ノ事實ハ

被告人星野準二ニ對スル豫審第五回訊問調書中判示同趣旨ノ供述記載

供述記載

(二)(5)ノ事實ハ

(一) 被告人宮崎晃ニ對スル豫審第九回訊問調書中判示同趣旨ノ供述記載

裁判所

裁判所

供述記載

(二) 被告人鈴木靖之ニ對スル豫審第五回訊問調書中判示同趣旨ノ供述記載

ニ依リ之ヲ認メ

(二)(6)(7)ノ事實ハ

(一) 被告人宮崎晃ニ對スル豫審第九回訊問調書中判示同趣旨ノ供述記載

供述記載

(二) 被告人星野準二ニ對スル豫審第五回訊問調書中同被告人ニ關係スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述記載

關係スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述記載

(三) 被告人星月治郎及同田代儀三郎ノ當公廷ニ於ケル右被告人

等ニ關係スル部分ニ付判示同趣旨ノ供述

(四)押收ニ係ル昭和十一年證第四六號ノ八、九「吾國に於ける

革命の完行に就て」「全國情勢報告」ノ各存在

ニ依リ之ヲ認メ

(二)(8)ノ事實ハ

(一)被告人鈴木靖之ニ對スル證審第五回及第八回訊問調書ヲ讀

シ判示同趣旨ノ供述記載

(二)被告人星野準ニ對スル證審第六回訊問調書中判示同趣旨

ノ供述記載

(三)押收ニ係ル昭和十一年證第四十六號ノ七「總選舉に際して

裁判所

青年諸君に訴ふ」ノ存在

ニ依リ之ヲ認メ

(二)(9)ノ事實ハ

(一)被告人鈴木靖之ノ官公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

(二)被告人星野準ニ對スル證審第五回及第九回訊問調書ヲ讀

シ判示同趣旨ノ供述記載

(三)押收ニ係ル昭和十一年證第一八號ノ二「黑色戦線」第一卷第

一號及第二卷第一號乃至第六號ノ各存在

ニ依リ之ヲ認メ

(三)ノ事實ハ

(一)被告人鈴木靖之ニ對スル證審第八回訊問調書中判示同趣旨

ノ供述記載

(二)被告人星野準ニ對スル證審第八乃至第十四回訊問調書ヲ讀

シ判示ノ如キ事方同志ノ人数ノ點(同被告人ハ百名ト陳述

ス)ヲ除キ判示同趣旨ノ供述記載

ニ依リ之ヲ認メ

(四)ノ事實ハ

(一)被告人宮崎晃ニ對スル證審第十四回及第十二回訊問調書ヲ讀

シ判示同趣旨ノ供述記載

(二)被告人星野準ニ對スル證審第五回訊問調書中昭和六年八

裁判所

月初旬私ト鈴木カ宮崎及田代ノアジトニ宿泊シタル際革命

蜂起ニ付話ヲ致シタルカ宮崎ハ特ニ信州ニ於テノ革命蜂起

ヲ確信シテ強調シテ言フニハ、信州地方ノ情勢ハ既ニ蜂起

ノ條件ヲ十分ニ備ヘテ居ルト思フ、信州ノ農村ノ情勢ハ益

ク顯然タルモノガアツテ此ノ秋ノ收穫期ニハ小作業ノ納入

ノ事ヨリ當然騒キカ起ルダラウコトハ十分豫想出來ル、其

處テ此ノ自然發生的ナル騒ヲ我々ノ蜂起ニ導ク事ハ是非必

要ナラント思フ、信州ノ蜂起カーツノ骨ノアルモノニナリ

レカ波及スルナラバ、其ノ他ノ地方農村ニ對スル刺激トナ

リ、相當全國的ナル混亂力可能ト思フ、之ハ我々ノ運動ニ

裁判用紙

於テモ選ケラレサル必要ニナリハシナイカト思フカ如何ト
申シタルカ、私ハ之ニ對シ條件ハヨクトモ今日ノ感ニ於テ
ハ信州ノ同志ノ數カ蜂起ニハ少ナ過キテ一切ヲ支ヘ切レル
モノテハナカラウカラ時期尙早タト思フト申シタルニ、宮
崎ハ自然發生ノ情勢ヲ見救ニスルコトモ考ヘナケレハナラ
ヌ又戰線ヘノ刺戟ハ今日ノ事情ニテハ考ヘル必要カアリ
ハシナイカト申シタルカ、私等ハ時期尙早ノ考ヲ持チ居リ
タリ、宮崎ハ當時可成リ革命蜂起ヲ今日ノ問題トシテ考ヘ
居リタリ、次テ同月十三日頃宮崎ノアジトヲ訪ネ田代モ加
リ三人ニテ右資金ノ話ヲ致シ居ル處ヘ相澤尙夫カ参リ、先
日宮崎ヨリ頼マレタル資金問題ニ付千圓ハ融通シ得サルモ
五百圓位ナラハ出來ルト思フト申シタリ、同人力歸リタル
後私等三人ニテ五百圓融通シ呉レ、ハ田代カ上海ヘ行キ武
器ヲ手ニ入レタル上夫レヲ使用シテ銀行襲撃ヲヤリ一度ニ
多額ノ資金ヲ作ル事ニシヨウ等ト相談致シタリ、次テ同月
十五日頃私ハ相澤ヲ訪ネタルカ、同人ハ先日話ノ資金調達
ノ事ナルカ僕ハ武器調係ノ事ヤ暴動問題ニ付テハ夫レヲ協
力シテヤルタケノ人柄テナイト思フ其ノ事ヲアノ男ニ話シ
テ呉レト申シタリ、私ハ相澤カ宮崎ヨリ信州暴動ノ計畫ヲ
話サレタル爲資金ノ調達ヲ躊躇シタルモノト察シ、翌日其

裁判用紙

ノ旨ヲ宮崎ニ話シタリ、次テ同月十七日頃ノ晚宮崎ノアジ
トヲ訪ネ宮崎、田代、金子廣只、私ト平松秀雄ノ五人カ會
合シタルカ、其ノ際宮崎ハ長野縣ノ地圖ヲ擴ケ信州同志ノ
分布狀態ヲ一同ニ示シ、信州同志ノ分布狀態ヨリ見レバ南
信、北信ノ鐵道線路ニ沿ヒ同志カ散在シテ居ル、廣野原君
ノ機ニ山村ニ陣取り居ル者モアルシ、伊澤君ノ機ニ南信ヲ
モ青年層ニ入り天レヲ動カシ居ル地方モアル、而シテ信州
ノ客觀情勢ヲ動カスニハ今日ノ信州同志分布狀態ニテ適當
ナル狀態ナリト思フ、信州暴動ノ具體的プランニ付テハ當
然闘争的ナル行動カ執ラレナケレハナラヌト思フ、例ヘバ
長野市ニ於テ縣廳、市役所ノ焚毀機打松本ニ於テハ警察ヤ
病院ノ火藥庫爆破ヲ行ヒ市街地ヲ攪亂ニ陷レ同時ニ伊那ト
大門ヲ中心トシテコンミュンノ宣言ヲ行ヒ之ニ應シ其ノ他
ノ地ノ同志ハ村々ニ於テ暴動ヲ起シ主ヲ縣ヒ米穀ヲ村民
ニ配給シ役場ヲ焼打シ收用ヲ決行スルノテアル、此ノ暴動
ヲ更ニ發展サセル爲ニハ東京方面ヨリ來ル鐵道部隊ヲ遮斷
スル爲縣井澤ノトンネルヲ爆破スルコトカ最も重要タ、暴
動中心地ヲ防禦スル爲ニハ重要道路ヤ鐵道ノ爆破ヲ繼續シ
テ行ク事カ必安タ、東京其ノ他ノ同志モ夫々ノ任務ニ從ツ
テ都市鐵道ノ爲ニ起ツ事ハ勿論タ、岡谷ハ信州經濟ノ中心

地ナル故此ノ地方ヲ燒拂ヘハコンミニンノ見透ハ立ツ新ク
シテコンミニンヲ宜旨スレハ地方ヘノ波及ニ依テ各地方ハ
起スルコトニナル、斯ク展望シ得ル故武器資金ノ獲得カ

先決問題ニシテ資金ヤヘ手ニ入レハ田代カ早速上海ヘ行キ
武器ヲ燐彈ヲ手ニ入レテ來ルコトニナリ居ルト話シタリ、
私ハ具體的ニ籌畫ヲ決行スルニハ相當ノ準備期間ヲ要スル
コトナル故未タ時期尙早テハナイカト考ヘタルカ、其ノ時
期如何ニヨリテハ全國情勢ノ再認識ヲスル必要カアルト考
ヘタリ、當時宮崎ニシテハ相當プランヲ持ツテノ話ノ様子
ニ思ハレタカ、目分トシテハ前述ノ如ク時期尙早ト思ヒタ
リ、然シ同志カ右計畫ニ基キ起ツ際ニハ自分モ同意トシテ
起ツ事ニナリタルモノナラント考アル旨ノ供述記載

(三) 被告人田代儀三郎ニ對スル豫審第四回訊問調書中判示日時
場所ニ於テ宮崎、星野、私、平松、金子ノ五名會合ノ上判
示ノ如キ内容ノ所謂信州暴動計畫ニ關スル協議アリタル旨
ノ供述記載

(四) 被告人金子廣只ニ對スル豫審訊問調書中判示日時場所ニ於テ
宮崎、星野、田代、平松、私ノ五名會合ノ上宮崎ノ提問ニ
依リ判示ノ如キ内容ノ所謂信州暴動計畫ニ付協議シタリ、
御讀陣々ノ宮崎ノ供述ニ依レハ如何ニモ茶飲話半分ニ出テ

タル豫ニ聞ユルカ左様ナモノニ非ス、一同眞面目ナル話ナ
リキ、田代カ興奮シ大聲ヲスル爲宮崎カ之ヲ制シ田代ハ外
ヲ眺メ離モ居ラザリシ故大丈夫ト云フ様ナ具合ノ有様ナリ
キ、宮崎ハ警察ニ於ケル以調ノ際留置場ニテ切カニ話ヲ致
シタル中ニ信州革命取行等ニ付組織的ニ行ハウト致シタル
モノニ非スト申立テロト申シ居リタル故、或ハ左様ナル意
圖ノ下ニ信州革命取行カ輕ク扱ハレル様ニスル爲氣分カ眞
面目ニ非ザリシ様ニ申シ居ルヤモ知レサル旨ノ供述記載

(五) 被告人平松秀雄ニ對スル豫審訊問調書中昭和六年八月中旬判
示場所ニ於テ宮崎、星野、田代、金子及私ノ五名ニテ協議
ヲ持チ、宮崎ハ提唱ニ基キ判示ノ如キ所謂信州暴動計畫ノ
協議ヲ致シタリ、宮崎カ又ハ田代カ右協議ノ内容ヲ信州革
命プラン草案トシテ替キタルカ其ノ後斯様ナルモノヲ體キ
テハ危イト申シ焼捨テテ仕舞ヒタル旨ノ供述記載
ヲ綜合シテ之ヲ認メ

(五) ノ事實ハ

(一) 被告人八木あきニ對スル豫審第四、五回訊問調書ヲ讀シ判
示第三(五)(1)乃至(3)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

(二) 被告人田代儀三郎ニ對スル豫審第四回訊問調書中判示第三

(五)(3)(4)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

ニ依リ之ヲ認メ

(六)ノ事實ハ

(一)被告人鈴木靖之及同室月泊郎ノ當公廷ニ於ケル夫々判示同

趣旨ノ供述

(二)被告人星野準ニ對スル豫審第六回訊問調書中判示同趣旨

ノ供述記載

ニ依リ之ヲ認メ得ヘク

次ニ乙ノ事實ニ付其ノ證據ヲ按スルニ

第一ノ事實ハ

被告人星野準ニ對スル豫審第七回訊問調書中判示同趣旨

裁判用紙

裁判所

ノ供述記載ニ依リ之ヲ認メ

第二ノ事實ハ

被告人田代健三郎ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

ニ依リ之ヲ認メ得ヘシ

仍テ判示犯罪事實ハ總テ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ

被告人鈴木靖之及同室月泊郎ノ判示各所爲ハ夫々一面ニ於テ治

安維持法第一條第一項前段ニ該當シ、他面ニ於テ同法第一條

第二項ニ該當スルトコロ、右ハ孰レモ一個ノ行爲ニシテ數個

ノ罪名ニ照ルル場合ナルヲ以テ、刑法第五十四條第一項前段

第十條ニ則リ重キ治安維持法第一條第一項前段ノ刑ニ從フヘ

ク尚被告人官崎晃ハ爾起ノ如ク竊盜罪ニ因リ處罰セラレ該判

決確定シタルヲ以テ、其ノ裁判確定前ニ犯シタル本件ノ罪ト右

犯點トハ刑法第四十五條ニ於テ併合罪ナルニ依リ同法第

五十條ヲ適用スヘク、右被告人罪名ニ對シテハ前示治安維持

法第一條第一項前段所定ノ刑中有期懲役刑ヲ選擇シ且犯罪ノ

情狀輕重スヘキモノアルヲ以テ、刑法第六十六條第七十一條

第六十八條ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告

人鈴木靖之及同室月泊郎ヲ各懲役四年ニ處スヘク、被告人星野

準ニ判示所爲中治安維持法違反ノ點ハ一面ニ於テ治安維持

裁判用紙

裁判所

法第一條第一項前段ニ該當シ、他面ニ於テ同法第一條第二項

ニ該當スルトコロ、以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ照

ル、場合ナルヲ以テ、刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則

リ重キ治安維持法第一條第一項前段ノ刑ニ從フヘク、尚被告

人ハ前記ノ如ク任意侵入、竊盜罪ニ因リ處罰セラレ該判決確

定シタルヲ以テ、其ノ裁判確定前ニ犯シタル本件ノ罪ト右犯

點トハ刑法第四十五條後段所定ノ併合罪ナルニ依リ、同法第

五十條ヲ適用スヘク、被告人ニ對シテハ前示治安維持法第一

條第一項前段所定ノ刑中有期懲役刑ヲ選擇シ且犯罪ノ情狀輕

重スヘキモノアルヲ以テ、刑法第六十六條第七十一條第六十

八條ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ右治安維持法違反ノ所爲ニ付被告人星野準ニテ懲役參年ニ處スヘク、判示犯人贖罪ノ點ハ刑法第百三條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ、尙前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯加重ヲ爲シ、其ノ刑罰範圍内ニ於テ右犯人贖罪ノ所爲ニ付被告人星野準ニテ懲役貳月ニ處スヘク、被告人八木あき、同望月治郎及同和佐田芳雄ノ判示各所爲ハ夫々一面ニ於テ治安維持法第一條第一項後段ニ該當シ、他面ニ於テ同法第一條第二項ニ該當スルトコロ、右ハ何レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、場合ナルヲ以テ、各刑

裁判用紙

裁判所

法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ治安維持法第一條第一項後段ノ刑ニ從フヘク、尙被告人八木あきハ前記ノ如ク贓物牙保罪ニ因リ、被告人望月治郎及同和佐田芳雄ハ前記ノ如ク住居侵入、竊盜罪ニ因リ夫々處罰セラレ其ノ判決確定シタルヲ以テ、右被告人等ノ本件罪ト前記各犯罪トハ何レモ刑法第四十五條後段所定ノ併合罪ナルニ依リ夫々同法第五十條ヲ適用スヘク、被告人等ニ對シテハ前示治安維持法第一條第一項後段所定ノ刑中懲役刑ヲ選擇シ、尙被告人和佐田芳雄ニ對シテハ犯罪ノ情狀憫諒ニヘキモノアルヲ以テ、刑法第六十六條第七十一條第六十八條ニ則リ酌量減輕ヲ爲シ、紋上各刑

刑罰範圍内ニ於テ被告人八木あきヲ懲役貳年六月、被告人望月治郎ヲ懲役貳年、被告人和佐田芳雄ヲ懲役參年六月ニ處スヘク、被告人田代優三郎ノ判示所爲中治安維持法違反ノ點ハ一面ニ於テ治安維持法第一條第一項後段ニ該當シ、他面ニ於テ同法第一條第二項ニ該當スルトコロ、右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、場合ナルヲ以テ、刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ治安維持法第一條第一項後段ノ刑ニ處シ、所定刑中懲役刑ヲ選擇シ、犯人贖罪ノ點ハ刑法第百三條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ、以上ハ同法第四十五條前段所定ノ併合罪ナルニ依リ同法第四十七條本文

裁判用紙

裁判所

第十條ヲ適用シ重キ前記治安維持法違反ノ罪ノ刑ニ同法第四十七條但書ノ制限ニ從ヒ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人田代優三郎ヲ懲役貳年六月ニ處スヘク、紋上被告人等ニ對シテハ同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中主文掲記ノ各日數ヲ夫々右本刑ニ（但シ被告人星野準ニ付テハ前記治安維持法違反ノ罪ニ因ル懲役參年ノ刑ニ）算入スヘク、訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文掲記ノ如ク負擔セシムベキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年四月十二日

長野地方裁判所刑事部

裁判長判事

中村泰藏

判事

金子正則

判事

谷口彦榮

右原本也

昭和二十一年五月六日
附同 廳

裁判所書記

大田一史

裁判用紙

裁判所